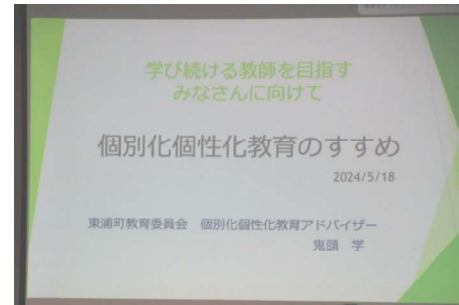


2024 第1回 SP研修会

2024年5月18日(土)、町勤労福祉会館にて「SP研修会」を開催しました。東浦町のSP活動が始まって今年で12年目となりました。目の前の子どもたちのために日々学校での支援に取り組んでくれるSPさんにも“Win”な活動になるように、そしてより一層SP活動が充実するためにと、東浦町では毎年1～2回、この「SP研修会」を開催しています。



今回のSP研修会では、第一部は東浦町個別化・個性化教育アドバイザーの鬼頭学先生(前 緒川小学校長)のご講演、第二部は現役SPとシニアSP(卒業生)、その他ご来賓の皆さまを交えた情報交換会を行いました。

鬼頭先生のご講演では、「個性とは?」「個別化・個性化教育とは?」「学び続ける教師を目指すみなさんに」という内容をお話いただきました。「個別化・個性化教育」と聞くと、多くの学生さんは、「新しい取り組み」「難しそう」と思うのではないのでしょうか。でも、「実はそうではないよ」ということを、分かりやすく教えていただきました。(気になる方は、ぜひ次回以降のSP研修会に参加したり、緒川小を訪れてみたりしてください!)参加者のみなさんが、前のめりになりながら、メモを取りながら、一生懸命話を聞く姿は“熱かった”です。この日は7月並みに暑い日でしたが、それに負けない熱気が伝わってきました。それだけタイムリーなテーマであったと同時に、東浦に来てくれるSPさんの意欲・意識の高さがすごいのだと思いました。

第二部の情報交換会も熱かったです。これからSP活動を始める学生さんも参加していましたが、どの学生さんもすぐに打ち解けて活発な意見交換をしていました。また、今回は3人のシニアSPも参加してくれたので、「現場ではこんなことをしているよ」「こんな苦労があったよ」「こういう時はこんな支援をしていたよ」など、自分の体験を交えた話をしてくれました。現場の先生になんでも聞ける機会、具体的なことを相談できる機会はなかなかないのではないのでしょうか。毎回、多くのSPさんから大変好評になっている時間です。SP活動が10年以上続いてきて、今では多くのSP経験者が先生として現場で活躍しています。だからこそ、より厚みのある情報交換会になってきているのではないかと感じます。また、シニアSPにとっても「初心を思い出せる機会」「自分の考えをアウトプットできる機会」になっているのではないのでしょうか。現役SPにとってもWin、シニアSPにとってもWinな研修会になっています。



参加者の方の感想・意見等

鬼頭先生のご講演では、個別化・個性化教育についてより深く学ぶことができました。いつも緒川小で SP 活動をさせていただいていますが、「週プロがなぜ成立するのか？」など、疑問に思うところがたくさんありました。しかし、先生のご講演を聞き、「子ども全員の想いを大切にする」「幸せを願う」など、教師として心がけること、そしてそれが個別最適な学びにつながっていることを学び、理解が進みました。自分の学校にはなかった環境・取り組みのある緒川小で、これからいろいろなことを実感しながら、教員になる上で大切なことを学んでいきたいと思います。情報交換会では、現場の先生のお話を聞きながら、共感していただけたり疑問をぶつけて解決したりすることができました。先生が自分から休み時間に外遊びに誘う姿を聞き、生き生きと奮闘していらっしゃる様子が伝わってきて私も頑張ろうと思いました！

【愛知教育大学 4年】

今回初めて参加させていただきました。まず、先輩方にお話を聞いたことが良い経験になりました。同じ職業を目指す方のお話は、すべてが興味深かったです。また、鬼頭先生のお話の中で、「子どもを幸せにする」という言葉にハッとしました。未来ある子どもたちの土台作りに関わる仕事に就くということとは、その子が将来幸せになるかどうかにもかかってくるのだと気づきました。【椋山女学園大学 3年】

今日の SP 研修会では、「個別最適な学び」がなぜ行われているのかについて学ぶことができました。私は、「個別最適な学び」は緒川小という特殊な環境だから実現できていたのだと考えていました。しかし、「個別最適な学び」は特殊なものではなくて、他の学校でも取り入れることができるのではないかと考えることができました。情報交換会では、「黄金の3日間」というものがあることを知りました。普段の SP 活動で、児童と教師の距離感を気にしていますが、この「黄金の3日間」も大切にしたいと思いました。SP として「ななめの関係」も大切にしつつ、教師としての子どもとの関係も これからの活動で意識していきたいと思います。

【愛知淑徳大学 4年】

緒川小での「個別最適な学び」「協働的な学び」の話から、「一人一人の個性を見とる力」「教員との協働」が大切だと改めて感じました。子ども一人一人を大切にすることは当たり前ですが、子どもがこれまで積み重ねてきた経験や興味・関心は異なり、個人差があることは子ども理解を深める上で大切だと思いました。子どもの背景を見とるとともに、平等ではなく公平な対応を行えるようにしていきたいと思っています。緒川小で実習を進めていく中で、先生方の関わり方を観察するとともに、学習環境での対応の仕方も学んでいきたいと思っています。今年一年の実習期間を大切に、日々を過ごしていきたいです。

【愛知教育大学大学院 2年】

鬼頭先生の「個別化・個性化教育」のお話で、一人一人の子どもにはそれぞれ違った良い面があるということを知りました。大学1年生の冬から「わくわく算数教室」や片葩小での SP 活動に参加をしていますが、そこでは勉強の得意な子、苦手な子、運動が好きな子、絵が得意な子、などさまざまな個性を持った子どもを見ることができました。今後教員として働く際には、一人一人の子どもを固定概念で見るのではなく、一緒に生活していく中で、それぞれの個性や可能性を探していきたいです。情報交換会では、偶然にも同じ大学・学部・学科であった先輩と一緒に、教員としてどう働いているかなど、いろいろな話を聞きました。今日学んだことを、来週からの教育実習やその後の教員人生に活かしていきたいです。

【愛知学院大学 4年】

大学では、各教科の指導のポイントなどは教えていただけても、教員に期待されていることや教員が心がけることについて学ぶことはありませんでした。今日、考える時間をいただけて良かったです。自分の意見は抽象的なものしか出てきませんでしたが、他の人の意見を聞きながら個別化・個性化教育の魅力に気が付けた気がします。また、情報交換会では、現在先生として働かれている先輩の体験談を聞き、道德の授業の進め方やクラスに合った指導案作りのポイントなど、実際に体験されたことをふまえて聞くことができました。まずは教育実習で活かしていきたいです。また、子どもを理解することや子どものよさや可能性を引き出すこと、一人一人に目を配ることなど、個別化・個性化教育に大切な点は児童クラブ(アルバイト)でも活かせると思いました。これからの SP 活動で、今日得た学びを忘れず取り組んでいきたいと思います。

【至学館大学 3年】

まだ SP 活動に参加したことはないですが、今後の活動に参考になる時間でした。鬼頭先生のご講演から、「個別化・個性化教育」についてのお話を聞き、「教員はどのようなことを期待されているのか」を話し合う時間が印象に残っています。私は「どの生徒にも良い学びや成長が見られる教育ができること」と考えました。他の人の意見も聞いた上で、自分の意見は抽象的であり、教育現場で子どもと関わっている人は具体的な内容で、私自身がもっと学び続けることが大切だと実感しました。情報交換会では、小学校の先生から体験談を聞いたり悩み相談をしたりできたので、これから、教育実習やSP活動が本格的に始まる自分にとって良い時間になりました。子どもの接し方については不安なこともあります。個性を大切に、子どもと関わりながら学び続けていきたいです。

【至学館大学 3年】

教員への期待として、「教育的愛情を持って使命を全うすること」「一人一人の個性を活かし、思いやりの心を持って接すること」が大切であると学びました。子どもに教えることを楽しみ、教員として子どもたちの学力面だけでなく生活面も成長させられるように支援していきたいです。また、子どもが興味・関心を持ったことを肯定的に捉え、個性を尊重したいと思います。個別化・個性化教育について学び、一人一人の能力に応じて学習の進め方を変え、見守り、支援・指導することを推進する教育であると分かりました。

【至学館大学 3年】

鬼頭先生のお話の中で、「個に応じた指導」はただ教えるのではなく、見守ることが大切であるという言葉が印象に残りました。また、情報交換会では先輩が多く、具体的な話をしていただいたので、自分はまだ抽象的にしか考えられていなかったと感じました。また、IT と教育について、現場ではどうなっているのかという質問に対し、タブレットか紙で書き物をするか選択ができるようになっていると聞き驚きました。また、先生の個性も多種多様であっても良い、ということも面白かったです。

【大同大学 2年】

SP 研修会では、現場の先生からお話を聞くことができました。「教師はどんなことを期待されているか」「どのようなことを心がけるか」、教員を目指す学生や現場の先生からさまざまな意見が出ました。どの意見も自分にはない新しい考え方でした。自分一人では出ない考え方を知る、発見できる機会になりました。情報交換会では、緒川小は教室と廊下の間に壁がない、開放的な空間であると聞きました。建築に興味があるので、ぜひ緒川小に行ってみたいと思いました。

【大同大学 2年】

「教員はどのようなことは期待されているのか」という問いでは、まず生徒が安心・安全に学校に通える環境を徹底することだと考えました。安心という面では、学級が生徒にとって居心地のよい場所になるような学級経営が大切ではないかと思います。「教員としてどんなことを心がけたらよいか」という問いでは、生徒が自ら考えて行動する(=生徒主体で学ぶ)力をつけさせたいと思いました。そのために、子どもに役割を与えて、たくさん活躍させたいです。この2つの問いに対し、今日はいろいろな方の意見を聞くことができ、考え方もさまざまだと感じました。自分になかった考え方や視点を知る良い機会でした。今後の教員生活に活かしていきたいです。

【教員1年目】

緒川小で SP 活動をさせていただいていた時は、「個別最適な学び」「協働的な学び」という言葉をたくさん聞くことができましたが、現場で働き初めてからは、それらの言葉をあまり耳にすることはなくなっていました。(自分も毎日を過ごすのに精一杯だったのもありますが……。)今日、改めて鬼頭先生のお話を聞き新鮮な気持ちになりました。働き始めて、「子どもの個性に応じた支援はとても大切なのだ」と感じるが増えました。今日聞いたお話を現場でも活かしていきたいと思います。情報交換会では、学部生の率直な悩みを聞くことができました。質問を受ける中で、「自分はどうやって子どもと接していたっけ?」と、自分の行動を改めて振り返ることができました。今回の SP 研修会に参加して、「これからも頑張ろう!」と思えました。

【教員2年目】

SP として研修会に参加していた際には理想ばかりがあり、正直、教員というものに対して抽象的にしかイメージできていませんでした。しかし、現在教員として働いている今だからこそ、感じること、考えがスッとはいってくることが多くあり、参加してとても良かったと思いました。個性化・個別化など、今話題のキーワードに関するお話が聞けて良かったです。根底にあるのは、「子どもたちの幸せを願う」というところを改めて学ぶことができました。私は国語科で、単元内自由進度学習は正直難しいのではないかと感じています。今日学んだことを持ち帰って、再度勉強しなおします。

【教員3年目】

今回の「SP 研修会」には、町議会議員の方、大学の先生、他市町や町内の管理職の先生、教育部長、指導主事など多く方にご参観いただきました。ありがとうございました。一部感想等ご意見を掲載させていただきます。

自分自身も学び続ける教師でありたいと思います。学生とともに、有意義な時間になりました。

鬼頭先生のお話に引き込まれました。「個性化教育は、今日本を動かしている」「一人一人の想いを大切にする学校が個別化・個性化教育の根本」という言葉が心に刺さりました。とてもよいお話でした。東浦町の教育が素晴らしく、たしかな柱があるところがよく分かりました。SP の OB も参加されていて、実りのある素晴らしい研修会になったと思います。

学生さんとの意見交換の時間が大変有意義でした。さまざまな学生さんがいて、さまざまな個性の教師が生まれるのだと思います。良い取り組みを長く続けている東浦町教育委員会の方に御礼を申し上げます。また、東浦で活躍された先生方の熱い想いに触れる機会は本当に大切だと感じます。伝えていくことで、新しい何かが生まれるだろうと感じます。